

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070201142
法人名	医療法人 正周会
事業所名	グループホーム玄海の森 西館
所在地	福岡県北九州市若松区大字有毛2933-6
自己評価作成日	平成24年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境、四季を感じられる中で、「自分らしくのんびりと、共に過ごす豊かな日々」を理念に掲げ、入居者一人ひとりの希望や、その人らしく生活が出来るように支援し、又、入居者・ご家族が安心し、穏やかに生活を送ることができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年4月24日	評価結果確定日	平成24年7月30日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の		65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある		66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が		67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が		69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が		70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしくのんびりと共に過す豊かな日々」の理念をいつでも目に入る位置に掲げ、職員一同理念に基づいた支援が行なえるよう念頭に入れ、実践につなげている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設しているデイサービスと行事を一緒に行なうことで地域から来られている利用者の方と交流を図っている。又、定期的に地域の方にボランティアに来ていただき顔馴染みの関係が持てるようにしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で議題に上げ、地域の方やご家族に対し事業所がどのように認知症の方を理解し、対応しているのかを伝えている。又、グループホーム同士でネットワークを作り、今後地域の方に対し講演会等行なっていく予定である。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加人数を増やす為に、曜日を変更することや利用者の日常の様子をもっと知りたいという意見に対しては、介護記録を見ていただくという対応を始めた。出た意見に対しては、職員にミーティングを通して伝えサービス向上に生かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、実情やケアの取り組みを報告し、困っていることに対する相談も行なっている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に、社外研修、社内研修を行い身体拘束について学び、身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待につながる言動が行なわれていないか、ミーティングで対応について話し合ったり、入居者の様子についても日々のケアの中で観察を行い、虐待を見過ごさないようにしている。		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだことを伝達研修行い理解を深め、対象となる入居者に対しては、家族に説明が出来るようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約又は、解約の際は時間を十分に取っていたき、一つひとつ確認しながら口頭で説明行い理解していただいている。不安や疑問点についても説明行なっている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた家族と話をする時間を持ち、意見をいただける関係作りを心がけている。玄関に意見箱を設置し匿名で意見を頂けるようにしている。		
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際に意見、提案を求め職員全員で話し合い、運営に反映できるように努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	希望する休みが取れるように勤務を組む他、月に1回以上の連休を設けるようにしている。有給休暇も消化していけるように配慮している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用に関しては、性別、年齢問わず、試用期間を設け、高齢者に優しい対応が出来る人を選ぶようにしている。働く職員についても個人個人の能力が發揮できるよう配慮している。		
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の生活の中で、言葉使い、対応について気が付いたことがあれば、職員と話し合うようにしている。定期的に研修も行なっている。		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や職場での役割に応じた社内、社外の研修を受ける機会を確保し、個人個人のスキルアップに繋げている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者のネットワークに定期的に参加し、困難事例の検討や地域との関わりについて話し合う機会を設けている。又、相互の運営推進会議に出席することを検討している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、本人と面談する時間を設け、今後の生活についての意向を遠慮なく言っていただけるよう配慮している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも面談を行い、本人の意向を踏まえた上で、家族が安心できる生活が送れるよう、時間をかけ話をするようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意見から、今何が必要なのかをアセスメント等の中より見出し、プランに結びつけるようにしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していることを意識し、介護する側からの目線ではなく、共に楽しめる歌や料理等から、伝える喜びや、学ぶ喜びを感じ、暮らしを大切に出来るようにしている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際は、近況報告すると共に昔の話を伺い、分からないこと等を教えていただきながら本人と共に支えていけるように努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の職場の同僚、一緒に習い事をしてきた友人が気軽に面会に来て下さっている。又、以前通われていたデイサービスを訪問し知り合いの方と話が出来るようにしている。		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と交流が持てるよう、その時に応じて食事の席やソファに座る場所を考えている。トラブルが起きそうな時は、職員が間に入り声かけをしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方であれば、本人の体調に配慮しながら面会に伺ったり、今後の事についても家族や併設している施設と連携を取り、話し合う機会を設けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話好きな方に対しては、会話の時間を多く持つようにし、外に出たい方に対しては、散歩、外食、ドライブを生活の中に取り入れるよう検討、実施している。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いたアセスメントを行い、本人、家族からいただいた情報をカルテに記載し全職員が把握出来るようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	睡眠時間や心身状態についてはカルテに記載し、排泄の間隔はチェック表を用いて変化を見逃さないようにしている。機能訓練やレクリエーションについては、その時の状態に応じて行なうようにしている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のミーティング又は、状態の変化に応じ話し合い、家族に対しては面会に来られた際に話し合うようにしている。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい変化も常に記録に残し、情報共有を心がけている。問題点や気付いたことは、その都度話し合い見直しを行なっている。		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを行なっている中で、本人のADLの変化、精神状態の変化が見られた際は、その都度本人、家族、職員と共にニーズを考え直し、サービスの変更を行なっていくようにしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域の園児たちの慰問の際は、歌や踊りを通して交流ができるようにしている。又、避難訓練の際は、消防署の方と意見交換行なっている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医をどこにするのか本人及び家族と話し合い決めている。協力医療機関を希望される方については、職員が付き添って受診の支援をしている。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービスの看護師や協力医療機関の看護師に相談し、健康管理に努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、面会時や定期的な電話連絡によって、病状や回復状況を伺い、退院の時期を相談し受け入れがスムーズに出来るように努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へは、面会時や手紙を通して、今後起こりうる状況をお話し、グループホームで支援できることを相談し、本人の意向も含め方針を決めるようにしている。容態が悪化した際の協力医療機関との連携は図れている。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアル、緊急時マニュアルに基づき、定期的に研修を行い、急変、事故発生時に備えている。		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練、消防訓練を消防署、消防用設備会社に協力を得て行っている。デイサービスに来られている地域の方に参加していただいたり、運営推進会議の際に地域の方に参加の声かけを行っている。緊急時には、関連施設の協力を得られるように体制を整えている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃より言葉使いに注意し尊厳を重視した対応をしている。入浴、排泄の声かけもさりげなく行なうようにし羞恥心に配慮した介助を行なっている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、行きたい場所や食べたい物、または、何かしたいことがないか尋ねるようにし、自己決定できるようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日同じ生活を送るのではなく、一人ひとりのペースに合った援助を行ない、出来る限り希望に添える一日が送れるように配慮している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色や洋服を一緒に選ぶようにしたり、自己決定できない方へは、なるべく色々な洋服を着ていただくようにしている。又、訪問美容にて本人の希望に添ったカット、カラーを行なっている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、行事や外食の際に取り入れるようにしている。嚥下や咀嚼の能力に応じ食事携帯を変えて提供している。準備、片付けが可能な方については、手伝っていただいている。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度チェック表に記入し、一日を通じて不足することがないように心がけている。水分制限のある方に対しては、提供の度記録し一日の摂取量を超えないように注意している。		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に合わせたケアを行い、必要に応じて歯科医の往診を受け歯周病の治療、義歯の調整を行なっている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し失敗のないよう誘導している。失敗の少ない方に対しては、パットを外したり、布の下着に変更していくようにしている。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給が確実にこなえるようにチェック表を記入している。又、運動不足改善のため、歩行運動、起立運動を定期的に行なうようにしている。便秘がちな方に対しては、担当医と相談し内服薬で調整している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を確認し、入浴前には必ず声かけし入浴が嫌いにならないようゆとりを持って支援している。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に配慮し、日中の臥床が必要な方に対しては、休息していただいている。就寝時間は本人の希望に応じ就寝いただいている。夜間不眠がある方に対しては、日中の活動量を増やし良眠できるように心がけている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を必ず確認し、分からないことは、担当医に尋ねるようにしている。又、薬の変更があった際には症状の変化がないか様子観察している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族との話し合いの中より、昔興味があったことや嗜好品を伺いホームでの家事活動やレクリエーションに取り入れている。		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>気候の良い時期には近隣の散歩や車でのドライブを行なっている。花見など全員で外出する際には、家族にも声かけし協力を得ている。</p>		
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が困難な方に対しては、家族同意の下お小遣いを預かるようにし、買い物の際可能な方には自身で支払が出来るように援助している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望に添って家族へ電話をかけて頂いている。手紙については、長い文章が困難であるため、年賀状、暑中見舞いに一言、言葉を書いていただくようにしている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その日の気温に応じて空調の調整をしている。それぞれ気に入った場所や、仲の良い方と過せるように家具の配置を行い季節に応じた飾りを製作し壁面に飾っている。</p>		
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングでは、席を決めずに好きな場所で過ごしていただき、場所の移動を好まれない方に対しては、本人持ちのソファを指定の位置に設置してくつろいでいただいている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族にお願いして使い慣れた物を持って来ていただくようにしている。写真や誕生日の色紙を居室に飾っている。</p>		
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>和室以外は全面バリアフリーとなっており、廊下、トイレ、浴室に手摺りを設置している。又、移動がスムーズに行なえるような家具の設置にし、環境を整えている。</p>		